

公立図書館における健康医療分野の図書所蔵

4 県内の所蔵状況分析による

松本直樹[†] (matsumoton@keio.jp) 江藤正己^{†‡} 須賀千絵^{†‡‡} 池谷のぞみ[†]
慶應義塾大学[†] 学習院女子大学^{†‡} 実践女子大学^{†‡‡}

【抄録】

本研究では、市民の健康医療分野の図書の入手可能性を明らかにするため、県内図書館の図書の所蔵状況を調査した。ランダムサンプリングで抽出した1万点の図書について、千葉県、神奈川県、和歌山県、高知県の各県内図書館の所蔵状況を調査した。結果、相互貸借網に大学図書館が加わることで提供可能点数は大幅に増加することが明らかとなった。また、県立図書館、大学図書館は質の高い図書を所蔵する傾向が強いこと、貸出は出版年が新しいほど多いこと、質の高い図書も比較的良好に貸し出されること、などが分かった。

1. 問題背景と先行研究

1.1. 問題背景

公立図書館では、課題解決支援の一環として、健康医療分野のサービスが積極的に展開されるようになってきた。健康医療分野を含めて図書館で提供されるサービスにはさまざまあるが、図書の貸出は最も基本的なものの一つである。一方で、健康医療分野の図書の提供のあり方も課題となってきた。図書館では、新鮮で、信頼性の高い蔵書構築が期待される一方、実際にはそうでないものも提供されている。

利用者に対する図書の提供を考えたとき、一図書館が提供できるものには限界がある。そのため、図書館界では、他の図書館と協力体制を構築し、所蔵しない図書をそうした図書館から入手し、提供してきた。こうした協力体制は多様に構築されているが、一般に公立図書館では県内で構築されることが多い。しかし、県内のこうした協力体制において、実際にどのような図書が提供可能かについては必ずしも明らかになっていない。そこで、本研究では、複数の県の健康医療分野の図書の所蔵の特徴を明らかにする。

1.2. 先行研究

公立図書館の健康医療分野のサービスについて、池谷は近年の動向を整理している¹⁾。資料の所蔵については、特定分野に注目したものとして代替

医療を扱った図書とその批判本²⁾、がん情報サービス³⁾、診療ガイドライン⁴⁾などの調査がある。また、全国の医学薬学分野の選書について分析しているものや⁵⁾、一県内(和歌山県)全体の健康医療分野の所蔵状況を調査している研究がある⁶⁾。しかし、複数県の健康医療分野の図書の入手可能性を比較した文献はない。以上の先行研究のレビューから、特定領域・地域などに絞った所蔵調査はあるが、複数県の健康医療分野の図書の所蔵状況は調査されてこなかったことが分かった。

2. 研究目的と調査方法

全国的に書店が減るなか、市民にとって図書入手の実質的基盤となっているのは県内の図書館である。しかし、その所蔵状況の詳細は必ずしも明らかになっていない。そこで、本研究では4つの県を選択し、県内で健康医療分野の図書をどのように所蔵しているのかを、探索的に明らかにする。

上記の研究目的を明らかにするため、以下の3つのリサーチクエスション(RQ)を設定した。すなわち、RQ1: 県全体で健康医療分野の図書をどのように所蔵しているか。RQ2: 質の高い図書はどのように所蔵されているか。RQ3: 所蔵されている図書はどのように利用されているか、である。それぞれのRQにおいて、県立図書館及び協力体制に含まれる他館種の図書館にも注目していく。

対象とする4県は、人口以外に、首都圏とそれ以外、県立図書館の分担収集の有無、県立図書館の積極収集、県立図書館の合築の有無、巨大政令都市の存在、公立図書館以外との相互貸借網などの観点から、千葉県、神奈川県、和歌山県、高知県を選択した。対象とした図書館は、基本的に公立図書館であるが、相互貸借の搬送網に大学図書館等が含まれている場合は、それらの図書館の蔵書も調査した。県立図書館のうち、高知県立図書館は高知市立市民図書館を含むオーテピア高知図書館が対象である。なお、公民館図書室やカーリルAPIでシステムIDが付与されていない図書館等はのぞいた。

対象資料は、健康医療分野の図書のうち、2000年～2023年に刊行された日本十進分類法が490番台から499番台の図書である。このうち、公立図書館が所蔵しやすいと考えられる図書を特に対象とした。書誌に関わるデータは、国立国会図書館サーチのOpenSearchを用いて2024年2月に以下の条件で収集した。金額が5,000円未満であること、ISBNが付与されていること、2000年～2023年に出版されていることである。条件に合致する90,537件からランダムサンプリングにより1万件のデータを抽出した。所蔵のデータはカーリルAPIを使用して取得した。取得時期は、2024年2月から6月である。分析はさきほどのRQに沿って、各県ごとに行い、それらを比較した。

3. 調査結果

3.1. 取得データの概要

収集したデータは、公立図書館112館、他館種は18館のものである。以下では、「異なり」と「延べ」を使い分けていく。「異なり」は、重複を含まない図書の所蔵点数を指す。「延べ」は、実際の図書の所蔵総数を表す。基本的に「異なり」で説明するが、「延べ」のときはその旨、述べるとともに、表では「(延)」と表記する。

3.2. RQ1：県全体で健康医療分野の図書をどのように所蔵しているか

調査対象とした1万点のうち各県の所蔵状況は、第1表のとおりである。「県立」がついていないものはすべて県内全体の数値である。

	千葉県	神奈川県	和歌山県	高知県
県所蔵点数	6,034	5,339	2,973	3,686
県所蔵点数 (他館種含)	7,385	7,019	—	5,110
平均提供可能点数	9.2	11.1	6.3	14.0
複本数(延)	7.42	5.71	2.98	2.13
県立所蔵点数	1,309	328	1,549	3,357
県立の対県比率	21.7%	6.1%	52.1%	91.1%

第1表 各県の所蔵状況

第1表の「県所蔵点数」から和歌山県・高知県と比較すると、千葉県・神奈川県は県内でアクセス可能な図書が多いことが分かる。これは元々の所蔵点数が多いことと関係している。

相互貸借網に含まれている大学図書館等を加えると(第1表「県所蔵点数(他館種含)」)、千葉県、神奈川県では7割超の資料にアクセスできることが分かる。また、高知県でも5割に達する。和歌山県は、大学図書館が相互貸借網に入っていない。性質の異なる図書館が相互協力体制を組むことで、県内全体の提供可能性が大きく改善することが分かる。4県の図書館が提供できる図書の点数は、県内図書館の蔵書数を平均した場合、6.3倍～14倍の間であった(大学図書館蔵書等を含む)。県内の複本を確認すると(第1表「複本数」)、千葉県、神奈川県、和歌山県、高知県の順に多かった。県内に多くの図書館があると複本が多くなることが分かる。

つぎに、県立図書館の所蔵であるが、高知県が3,357冊と多い(第1表「県立所蔵点数」)。それぞれの県内で占める比率は、高知県が91.0%と圧倒的に多い(大学図書館をのぞく、第1表「県立の対県比率」)。この値は、県内でアクセス可能な図書のうち、県立図書館で利用できる図書の比率である。首都圏の図書館では小さく、それ以外の地域では大きい。特に高知県のように合築の場合、市立図書館分を含むこともあり、9割以上の図書にアクセスできる。なお、神奈川県立図書館が少ないのは、資料収集方針と関係していると考えられる。県内で県立図書館のみが所蔵する図書について見ると、千葉県は8.0%、神奈川県は1.3%、

和歌山県は20.0%、高知県は60.7%であり、こちらも非首都圏で、県立図書館の存在感が目立っている。

分野について、第三次区分表ごとに見ると4県とも、基礎医学(491)、婦人科学・産科学(495)などは出版点数と比して所蔵が多い。逆に、医学(490)、臨床医学・診療・治療(492)、歯科学(497)、薬学(499)などは少ない。

3.3. RQ2：質の高い図書はどのように所蔵されているか

図書の「質」については、いくつかの指標がある。ここでは、価格、索引の有無、日本医書出版協会(JMPA)加盟出版社の3つの観点から見ていく(第2表)。

	千葉県	神奈川県	和歌山県	高知県
平均価格(円)	1,969	1,927	1,709	2,012
県立平均価格(円)	2,595	2,053	1,981	2,058
索引あり図書比率	21.2%	19.6%	18.8%	34.0%
県立図書索引あり比率	47.0%	23.5%	25.6%	36.0%
JMPA図書比率(延)	3.3%	3.3%	2.7%	7.3%

第2表 所蔵資料の質的側面

まず、価格である。学術的、専門的図書は高価格であることが多い。各県の平均は第2表の「平均価格」のとおりであり、高知県が最も高かった。これは、異なりのデータで見たものであるが、「延べ」でみると、高知県をのぞいた3県はほぼ同じ分布であった。高知県は、オーテピア高知図書館の存在が大きく、その影響を受けて県全体でも平均価格が高くなっていた。

県立図書館の平均価格は、第2表「県立平均価格」のとおりであり、県内全体の平均価格よりも高い。神奈川県は横浜市が最も高かったが、県立図書館はそれに次ぐ。このように、一般に県立図書館は高価格帯の図書を購入する傾向が見られた。相互貸借網に含まれる大学図書館等の平均価格はさらに高い。千葉県は2,633.6円、神奈川県は2,461.5円、高知県は2,663.1円であった。

つぎに索引ありの図書についてである。索引がある図書は、やはり学術的、専門的な図書であることが多い。今回調査した1万点のうち索引あり

の図書は2,322点(23.2%)であった。県立図書館の所蔵図書は索引ありの比率が高い(第2表「県立図書索引あり比率」)。特に千葉県と高知県が高い。同様に、大学図書館は、千葉県が43.9%、神奈川県が37.2%、高知県が33.7%である。繰り返しになるが県立図書館、大学図書館は市町村立図書館の蔵書を効果的に補完することができる事が分かる。

それぞれの県内の公立図書館所蔵の図書については、第2表の「索引あり図書比率」のとおりである。高知県をのぞき、全体の比率よりもわずかながら低い。このことは、公立図書館では、出版動向と類似しているものの、非学術的な図書を購入する傾向があることを示唆している。

日本医書出版協会加盟出版社の図書について見てみる。まず、1万点中での該当図書は1,766点(17.7%)であった。各県の蔵書全体に対する比率は第2表「JMPA図書比率」のとおりで、全体の比率からは低いが、その中で高知県が高いことがわかる。

3.4. RQ3：所蔵されている図書はどのように利用されているか

ここでは、図書の貸出状況を貸出率から見ていく。貸出率は、資料の状態が「貸出中」および「予約中」のものとした。この貸出率はすべて「延べ」のデータである。

第3表の「平均貸出率」を県ごとに見ると、神奈川県が顕著に高く、それ以外は概ね7%前後であった。神奈川県の高い理由は不明であるが、巨大政令都市である横浜市(貸出率17.2%)、川崎市(同18.0%)の貸出率が高いことと関係している可能性がある。

	千葉県	神奈川県	和歌山県	高知県
平均貸出率(延)	7.5%	12.6%	7.1%	6.7%
5年間貸出率(延)	53.7%	53.4%	58.6%	66.7%
県立貸出率(延)	1.9%	3.0%	3.0%	8.9%
索引有貸出率(延)	8.3%	13.0%	8.2%	7.5%

第3表 図書の利用状況

出版年ごとに貸出率を見ると、出版年が新しいものほどよく貸し出されていた。健康医療分野の図書の提供では、出版年からの年数を除架の基準とすることがある。試みに出版後5年間(2019年度以降)の図書の貸出点数を算出すると、各県ともに貸出全体の50%から60%であった(第3表「5年間貸出率」)。同様に出版後10年間は80%から90%であった。

つぎに価格帯ごとの貸出率を見てみる。基本的に1,000円以下の価格が安いものの貸出率が高く、価格が高くなるにしたがって貸出率は低くなる。ただし、千葉県と和歌山県は1,000円~1,500円の資料にピークがある。また、高知県をのぞき、3,500円から4,000円の価格帯で貸出率が上昇している。これは、この価格帯にある児童書が影響していると考えられる。

県立図書館の貸出率は第3表「県立貸出率」のとおり、全体の貸出率よりも低い。ただし、オーテピア高知図書館は例外的に8.9%と高い。質の高い図書の貸出として、索引ありの図書の貸出率を見てみると(第3表「索引あり貸出率」)、全体よりも高い。利用者は索引付きの図書をよく利用している点が注目される。分野ごとの貸出率をNDCごとに見ると、衛生学・公衆衛生・予防医学(498)、臨床医学・診断・治療(492)、内科学(493)などが比較的高く、内科学(490)、歯科学(497)などが低かった。

4. まとめと考察

RQごとに本研究からわかったことをまとめる。RQ1について、各県の対象資料の所蔵率は、県内全体の蔵書規模に応じて違いがみられた。特に首都圏の図書館は多く所蔵していた。また、千葉県、神奈川県、高知県などで見られたように、相互貸借網に大学図書館が加わると、提供可能点数は大幅に増えることが分かった。多館種の相互貸借網構築の重要性を指摘できよう。県立図書館は資料収集方針(神奈川県立図書館)、合築(オーテピア高知図書館)などにより所蔵のあり方が大きく変化した。

RQ2について、価格は平均が1,709円から2,012円の間であった。県立図書館や大学図書館は高価

格帯の図書を所蔵する傾向が見られた。索引ありの図書所蔵は、サンプルとした1万点中の図書の比率よりもわずかながら低い県が多かった。そうした中、県立図書館(特にオーテピア高知図書館)や大学図書館は索引ありの図書を多く所蔵する傾向が見られた。これにより、信頼性が高く、専門的な図書を県内で提供する可能性を高めることに貢献していた。

RQ3について、貸出率は7%から12.6%の間であった。神奈川県は他県と比較して顕著に貸出率が高かった。出版年では、新しいものほど貸出率は高かった。出版から5年間、10年間の区切りでそれ以前の図書を除架した場合、貸出点数が一定程度、減少する可能性がある。ただし、資料の除架は、探しやすさを向上する利点もあり今回の調査結果どおりに減少するとは限らないであろう。価格帯では、安価な図書で貸出率が高い傾向にあったが、高価格帯でも貸出率が高いものが一部見られた。索引ありの図書へのニーズは、それ以外の図書へのニーズを上回っていた点は注目される。

【謝辞】本発表は、JSPS 科研費 23K11774 の助成を受けています。

【注・引用文献】

- 1) 池谷のぞみ. 国内の公共図書館における健康医療情報サービスの最近の動向. カレントアウェアネス, vol. 337, no. 2018, p. 20-26.
- 2) 大谷康晴ほか. 代替医療を扱った本とその批判本の所蔵: 日本の国立・公共・大学図書館の調査. 第62回日本図書館情報学会研究大会発表論文集, 2014, p. 125-128.
- 3) 磯部ゆき江, 佐藤正恵, 三輪眞木子. 都道府県・政令市図書館の医療健康情報サービス: 「公共図書館のがん情報サービスの課題: 提供する資料・情報の視点から」調査報告. 現代の図書館, vol. 56, no. 2, 2018, p. 83-103.
- 4) 山下ユミほか. 日本の都道府県立図書館における医療・健康情報提供: 医中誌Web提供と診療ガイドライン所蔵の状況から. 第69回日本図書館情報学会研究大会発表論文集, 2021, p. 9-12.
- 5) 松本直樹, 池谷のぞみ, 桂まに子. 公立図書館における医学薬学分野の選書分析. 日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集, 2017, p. 9-12.
- 6) 松本直樹ほか. 一県内の健康医療分野に関わる図書の所蔵状況: 県立図書館の役割に注目して. 第71回日本図書館情報学会研究大会発表論文集, 2023, p. 65-66.